

重点目標	新たな職域の開拓と、開拓先事業所との連携による職業教育の実践を図る。	P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・由利本荘地区は、障害者雇用率秋田県ワースト1の地区となっているため、改善が必要とされている。 ・地域において、学校の知名度は上がっているが、生徒の実態についての理解はまだ不足している。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・職域開拓促進事業の推進として、校外作業の受け入れ先の開拓、新たな業種・業務開拓、従事可能な作業内容の開拓をする。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ①職場開拓員による実習先・就職先の開拓。 ②職業教育改善会議を通じた作業種の拡大。 ③高等部職員による校内実習・作業学習の改善。 	
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ①職場開拓員が、由利本荘市、にかほ市をくまなく開拓。 ②地場産業の発掘と、それに関する生徒の作業能力を確認し、作業能力向上のための実践力を磨く学習の推進。 	D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ①拡大した事業所は、従来・新規合わせて100以上であった。 ②地場産業のうち、生徒の特性に合ったものを作業学習に取り入れた。(例：本荘組子) (候補：アケビびる・クルミを使った製品、刺子、木製玩具等) 	
自己評価	(根拠)	C
(評価) A	<ul style="list-style-type: none"> ・実習先評価の情報や卒業生保護者からのアドバイスなどが、進路研修会やPTA研修会で報告された。 ・開拓した実習先の見学を、全校職員、保護者で行い、アンケート調査から実態との照らしあわせが行われた。 	
<p>評価基準</p> <p>A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>		
学校関係者評価と意見	(意見)	C
(評価) A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の抱える課題や疑問に対する研修会の提供が必要である。 ・職員は、児童生徒の将来の生活にとって何が有用なのかを見極めてほしい。 ・教育活動の更なる資源の掘り起こしが必要である。 ・地域の事業所を積極的に活用し、理解してもらうための更なる発信をしてほしい。 	
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の全体計画を見直し、指導内容表等全校で共通理解できるものを作成し、指導に生かす。 ・コミュニティスクールを核にした計画に構成し直す。 ・開拓された、就職を受け入れてくれる事業所や実習可能な事業所について、職員が実際に足を運び、生徒の特性を踏まえた調査を行い、デュアルシステムを活用して進路指導に生かしていく。 ・地場産業の更なる開拓と作業種の拡大を図っていく。 	A